

【 会 議 録 】 (概要)

日時:平成28年2月17日(水) 18:30~19:30

会議名	平成27年度越谷市自治基本条例推進会議 第6回会議	場所	越谷市役所本庁舎5階 第2委員会室
件名 議題	1 開会 2 報告書提出 3 市長あいさつ 4 懇談 5 その他 6 閉会		
資料等	<input checked="" type="checkbox"/> 有 無		
出席者	出席委員 佐々木会長、石崎副会長、駒崎委員、齋藤委員、白岩委員、鈴木委員、淵野委員、松原委員、雨宮委員、横家委員(10名) 欠席委員 黒田委員、村田委員、戸巻委員、三澤委員、大野委員 事務局 立澤企画部長、佐々木企画部副参事(兼)企画課長、早山企画課調整幹、根本同主事、丸岡同主事(5名) 傍聴者 なし		
内 容	別紙 会議録(要旨)のとおり		
●合意・決定事項等 ・「参加と協働による、市民を主体とした自治のまちづくりを進めるために(報告書)」を市長に提出した。 ・推進会議でのこれまでの取り組みを踏まえ、市長と各委員が懇談を行った。			

会議録（要旨）

1 開会あいさつ（会長）

本日の会議は、第3期最後の会議です。これまで2年間、11回に渡りまして協議を重ねてきた結果を、報告書として提出させていただくこととなります。委員の皆さんには、これまでご協力いただいたことに改めてお礼申し上げます。報告書の提出のあとには、市長との懇談もございますので、どうぞよろしく申し上げます。

2 報告書提出

- ・会長及び副会長が、「参加と協働による、市民を主体とした自治のまちづくりを進めるために（報告書）」を市長に提出した。

（会長）私たちは、2年間、第3期の推進会議委員としてこの報告書をまとめさせていただきました。

第1期の推進会議では概括的な報告書を提出させていただきました。その後、市長からの諮問を受け、自治基本条例の普及に関する事項について答申させていただきました。また、第2期の推進会議では、自治基本条例の適切な運用に関する事項について答申をいたしました。第3期の推進会議では、第1期、第2期での報告書と答申も踏まえ、総括的な視点で報告書をまとめました。

今回の報告書では、特に、市と市民との協働についてを中心にまとめております。市としても、この報告書の内容を踏まえ、越谷市がますます良いまちとなるよう取り組んでいただきたいと思います。

3 市長あいさつ

皆様、こんばんは。

本日は、『参加と協働による、市民を主体とした自治のまちづくりを進めるために』の報告書を提出していただき、ありがとうございました。

11回にわたって会議が開催され、報告書をまとめていく際には、ワークショップを取り入れるなど、様々な工夫をしていただいたと伺っております。佐々木会長様、石崎副会長様をはじめ、委員の皆様、重ねて厚くお礼を申し上げます。

今期の推進会議では、自治のまちづくりを推進するためには、市民の市政への参加、さらに市民と市、市民相互の協働が重要であるとの共通認識のもとに調査審議が行われ、皆様の日頃の活動や経験を踏まえて、率直なご意見をまとめていただいたと伺っております。

来年度から、第4次越谷市総合振興計画後期基本計画がスタートします。この後期基本計画では、「地域の協働推進プロジェクト」を重点戦略として位置付け、市民参加と協働によるまちづくりの体制を整えるとともに、市民活動の活性化に取り組み、市民の皆様が主役のまちづくりを進めることを謳っております。子育て、高齢者の見守りなどの地域福祉、防災などの公的な分野において、市民の皆様の多様な活躍が期待されますし、個性豊かな地域づくりに、市民の皆様の手は欠かすことができません。

本日ご提出いただいた報告書の内容を踏まえまして、今後も全ての市民の皆様が笑顔で安全、安心、そして、いきいきと暮らせるまちづくりに全力で取り組んでまいりますので、今後ともなお一層のご指導、ご助言を賜りますよう心からお願いを申し上げます。あいさつとさせていただきます。

長期間にわたり並々ならぬご尽力をいただき、まことにありがとうございました。

4 懇談

（会長）日ごろの活動の中で思っていることや、推進会議を通して感じたことなど、自由に発言して

いただければと思います。いかがでしょうか。

- (A委員) 私は自治基本条例推進会議の公募委員に第1期から毎回応募してきました。応募者多数のため、第2期までは抽選により落選となっていましたが、今回の第3期の推進会議では委員として委嘱していただきました。第4期の推進会議の公募委員も、定員を大きく超えての応募があったと伺っています。このようなことも、市民の関心が高まってきているということで、推進会議の活動の成果の一部なのではないかと思っています。一方、市民参加の代表的なものとも言える選挙の投票率がなかなか上がらない現状があります。投票率が上がるよう、市民の意識を高める工夫についても、推進会議で考えていけると良いのではないかと考えています。自治基本条例推進会議の委員は、事前に勉強をし、会議でしっかりと自分の意見を述べていると感じました。今回このような報告書としてまとめ、本当に良かったと思います。
- (B委員) 自治基本条例をつくる過程から関わらせていただいたこともあり、今期の推進会議委員に応募しました。日常的に市との協働で事業を進めており、その現場での思いなどを生かせれば良いと思い、推進会議に参加させていただいていました。日々の活動の中で、行政と市民の両方がお互いへの理解を深めていかなければ、なかなか協働が進んでいかないと感じています。行政の職員の方は市民の発意による事業に関心を持っていただくことが、市民は行政の仕組みや手法、法令遵守について勉強することが必要です。行政と市民、双方がともに学び、協働が進んでいくと良いと思います。
- (市長) 事業を実施する際、行政から市民に投げかけること、また、市民が色々なテーマや課題を行政にぶつけてくれることが大事だと考えています。市民の皆様から、どんどんご意見を出していただくことによって、行政側も成長していきたいと考えています。本日の懇談で色々なことをお聞きして、今後の方向性をしっかりと考えていきます。
- (C委員) 今まで市と市民がお互いに話をしながら協力してきました。協働はもう始まっていて、初期の段階ではないと思います。自治会やコミュニティ推進協議会、市民活動団体も活発に活動しており、活動の場として市民活動支援センターもできました。しかし、市民活動支援センターの運用にはまだまだ課題があると思います。また、予算がないことを理由に、市民からの発意の事業が十分に取組まれないことがあります。事業の費用対効果を測る時には、短期的な視点ではなく、中長期的な視点で、また色々な事例等も研究した上で測る必要があると思います。市民も行政も、お互いに十分に勉強する必要があります。中核市に移行して、他市からも注目されていますので、どうぞよろしくをお願いします。
- (D委員) 予算がないというのは、どのような状況なのでしょう。
- (市長) 限りある予算の中で、どの事業を実現するか取捨選択する必要があります。取捨選択するにあたっては、十分に突き詰めて議論をしなければなりません。また、市民活動支援センターは、活動の場としてできましたが、ソフト面など運用については様々な答えがあり、粘り強く議論を重ねていくしかないと考えています。
- (事務局) 市民の皆様のソフト事業に関する活動の支援は、予算を潤沢に用意することはなかなか難しい中で、お互いに知恵を持ち寄ってどうするかという話をさせていただくことが必要です。市民の皆様の主体的な事業を助成する、越谷しらこぼと基金助成事業がありますが、この制度をもっと皆様が活用しやすいものにしようとして検討しています。また、日々活動している上で問題点については、具体的に行政にお伝えいただき、次のステップに進んでいくことが重要だと考えています。
- (E委員) 市民側も力をつけて、第三者から見て評価してもらえるような、また、何らかの数値で成果を示せるような団体に成長していく必要があるということを日々感じています。
- (会長) この推進会議の委員は、皆さん地域で色々活動をしている方々で、率直な意見をいただいています。自治のまちづくりの観点から、とても良いことだと思います。意見を出しただけにせず行動が伴わなくてははいけません。市民として、そういった共通認識のもとに皆さんやっ

ていただいています。

- (F委員) 市長がこれまで色々なお話をされた中で、自治基本条例の条文を引用して話をしたことがあれば教えてください。
- (市長) 私は市長になる前は議員を務めており、その立場から色々な提言をしてきました。今は市長となり、皆様のご意見を受ける側になっており、なかなか自治基本条例を引用して話をする機会がありませんが、市民参加については、市民の皆様には期待をしています。市民の皆様から色々な提案をいただくことで、市民参加が進んでいくと考えています。ご意見をいただくにあたって、一人ひとりがそれぞれで意見を言っていたのでは進まないで、協議の場を設けて取り組んでいく必要も感じています。予算の一部の使い道を市民の皆様には考えていただく、といった手法も聞きますが、ただ単に予算を確保するのではなく、ある程度テーマを設定した上で、どうやって分配して活用していくのかを考える必要があります。そういった組織をつくるのが可能か、といったことも、市民の皆様から提案していただくことによって、協議の俎上に乗ってくるものと思います。ご質問への直接のお答えにはなりません、そのような考えでおります。
- (G委員) 報告書の中にもありますが、自治基本条例の認知度を高めていく必要があります。今後、機会に応じて、市長から自治基本条例のお話をしていただけると、認知度が高まっていくことにも繋がると思いますので、よろしくお願いします。
- (H委員) 予算が潤沢にあった時代は終わり、これからは市民の力を活用していかないと行政が立ち行かなくなってしまうと思います。市民が色々な活動をしようとしていることに対して、しっかり対応していかなくてははいけません。行政が自治基本条例に基づいて施策を展開しているか等を検証して意見が言える、そして必ずしも行政を批判するのではなく、問題提起をしていけるこの推進会議のような場が確保されていることは、とても良いことだと思います。越谷市のように、市民がしっかり仕事をしようという意欲を持って活動しているところは、なかなかないと思います。
- (会長) 越谷市の市民は、積極的に行動をしていると思います。これはとても誇れることです。
- (I委員) 自治基本条例は、だいぶ市民にも浸透してきているように感じます。何か要求するときも、要求するばかりでなく、自分たちでやれるところはやらなくてはならないという意識が出てきたように思います。また、市の職員の皆さんも、自治基本条例が生かされているなど感じられる対応が見受けられます。団体の活動ではしらこぼと基金も活用させていただき、いただいたからには地域をよくするため精一杯活動しなくては、と頑張っています。市民の側では自己資金の確保のための努力などもしており、市の職員の方々も協力してくださっています。市民も行政もお互いに努力をして、進展してきていると思いますので、ご報告させていただきました。
- (J委員) 議会などで予算に関する審議などを傍聴させていただくと、予算のつき方など、納得することができます。事業を実施できない際に、単純に予算がない、と言うのではなく、どのような事業に予算が割り当てられているかなどを丁寧に説明すると、不満が減るのではないかと思います。また、行政が説明することと同時に、市民も自分で知ろうとする努力が必要です。推進会議でも、色々な情報のPR方法等を検討していき、市民の不満を解消していければ良いと思います。
- (K委員) やはり協働というのは、相対する者同士がお互いに理解し合わなくてはなりません。課題は人や団体、場によって変わってきます。色々な物事の優先順位を整理して、市民と行政とで解決していく場を考えていく時期に来ているのではないかと思います。初歩の段階から、進展してきたからこそその課題が出てきている時期です。色々な形で政策の中で反映していただければよい、よろしくお願いします。
- (市長) 行政が計画をつくり、実際に実行していく時にギャップが生まれる原因は、最終的には財政

面の問題です。いかに今ある予算を有効に的確に行使していくか、色々なご要望をいただく中で、時間的な優先順位や取捨選択、事業の仕分けをしながらやっていくという視点をもっていかなければならないと考えています。市民の皆様から問題提起をしていただくことが、本当の市民参加に繋がっていきます。議論から始まって、お互いに理解しあって、今何ができるのかというところに進んでいきます。そのような議論を、大きな場をつくって行うのか個別に行うのか、どのようにするかを考えていくことが重要だと思っています。

(会長) 時間の都合もありますので、以上で懇談を終了とさせていただきます。ありがとうございました。

【市長退席】

5 その他

- ・事務局が、「参加と協働による、市民を主体とした自治のまちづくりを進めるために（報告書）」の公表方法等について説明した。

6 閉会（副会長）

本日は第3期最後の会議でした。報告書を市長に提出し、一緒に懇談もしていただきました。一番長い方は6年間、短い方も2年間、推進会議の委員としてともに活動させていただきました。具体的な課題も多く残っているものと感じております。議論の場が必要だというようなことも懇談の中で出ました。その議論の場と、この推進会議が良い形で繋がっていくと、市と市民のためになっていくと思います。また今後とも色々な立場でお会いすることがあろうと思います。どうぞご協力を賜りますよう、お願い申し上げまして挨拶にさせていただきます。ありがとうございました。